

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 Wao!		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づき、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を行いながら、小集団での関わりを通して社会性や集団適応力を育てる支援を実践している。	日々の支援記録や振り返りを通して子どもの姿を丁寧に共有し、職員間で支援の方向性を統一するとともに、成功体験を積み重ねられるよう活動内容や関わり方を工夫している。また、保護者との情報共有を密に行い、家庭と連携した支援を行っている。	モニタリングやケース検討をより充実させ、子どもの変化を多角的に分析しながら、より効果的な支援方法の検討と支援の質の向上を図っていく。
2	保護者との信頼関係を大切にしながら、日々のやり取りを通して、子どもの様子や成長を具体的に伝え、家庭と情報を共有しながら連携して支援を行っている。	支援のねらいや子どもの変化を具体的に伝えることで、保護者が子どもの成長を実感できるよう努めている。また、保護者からの意見や意向を児童発達支援計画や日々の支援に反映している。	保護者のニーズを把握しながら、情報提供や交流の機会を充実させ、家庭と事業所が共通の視点で子どもの成長を支えられる体制の強化を図る。
3	職員間での情報共有や振り返りを通して、支援の検証と改善を継続的に行い、組織全体で支援の質の向上に取り組んでいる。	支援終了後の打合せや記録を活用し、子どもの姿や支援の効果を職員間で共有し、支援方法の見直しにつなげている。	職員全体がPDCAサイクルを意識しながら主体的に業務改善に参画できる体制を強化し、支援の質のさらなる向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援計画の内容や支援の進捗について、保護者にとって分かりやすい形での共有をさらに充実させる必要がある。	日々の支援は実施しているものの、支援の進捗や目標との関連について具体的に説明する機会や方法に差があるため。	送迎時や面談等を通して、支援のねらいや達成状況、子どもの具体的な成長の様子をより分かりやすく伝え、保護者との共通理解を深めていく。
2	地域との交流や外部機関との連携について、さらなる充実を図る余地がある。	子どもの発達段階や安全面への配慮を優先する中で、地域との交流機会の設定が限定的となっているため。	関係機関との連携を継続しながら、子どもの状況に応じて地域との関わりを段階的に検討し、地域の中で安心して過ごせる力の育成につなげていく。
3	活動プログラムや支援内容について、保護者への説明や可視化をさらに充実させる必要がある。	活動の意図や支援目標との関連について十分に伝わりきらない場合があるため。	活動のねらいや育てたい力を明確にし、ホームページやお便り、面談等を通して具体的に発信することで、支援内容への理解を深めていく。